

第9回 中部地方水供給リスク管理検討会 (R3.5.7開催) 議事要旨

議事(1) 前回(第8回)の議事要旨

第8回検討会(R2.11.2開催)の議事要旨を紹介した。

議事(2) 他水系の検討

● 選定の考え方

他水系の検討として、木曾川を選定した理由を説明した。

● 木曾川水系の水供給・水利用の概要

木曾川水系の現状の水供給・水利用の概要について紹介した。

〈意見等〉

- 木曾三川の流況と取水量について、基準地点と河口換算で値を出しているが、取水口地点でも算出してみたらどうか。
- 木曾川水系は、ダムと受益地の関係が複雑であることがわかるが、水利用をすぐに理解することが難しい。
- 発電ダムが事前放流後、貯水量回復のために水を貯めると下流の河川流量が減少して、利水が使用するために貯めようとしているダムが貯留出来なくなるなど影響が出るのではないか。

● 木曾川水系での論点整理の適用

第2回検討会までに行った論点整理の結果について、木曾川水系の検討にあたってはモデル水系(矢作川)と同じ考え方で適用することについて、留意事項等について意見交換を行った。

〈意見等〉

- 木曾川では、融雪時期が変化する事象は気候変動で、渇水が生じる事象は、異常時と切り分けて検討を行うのが明確にすることが重要である。
- 利水ダム等において、事前放流を実施後、洪水が空振りして、容量が回復できないという場合もリスク要因の一つと考えられる。
- ダムへの堆砂による貯水容量減の影響も気になるところである。
- 今後の進め方としては、矢作川の検討の流れを踏襲していくことでよい。

- 少積雪を検討するにあたっては、通常の積雪があった場合と全然雪が降らなかった場合とで、通常時、異常少積雪時それぞれの影響を見積もってはどうか。
- 将来的には、木曽川で人々の意識の中に、近隣の地域と水供給に関して折り合いをつけながら暮らしているということが浸透していくような方向づけが示されるとよい。
- 木曽川水系と矢作川水系を単独でとらえるのではなく、両水系間の関連性を考えて検討していくことが重要である。
- 木曽川水系の水資源開発施設を一体として使用していくという視点があってもよいと思う。
- 利水、渇水の検討は大変難しく、ある程度の融通をもたせて検討を行っていくことも、長期的なリスクの考えでは必要ではないかと思う。

- **その他**

次回以降は、リスク要因の検討を進めていくことを確認した。

〈意見等〉

- 矢作川の検討をしていく中で、水の受給者の視点にたった水供給リスクのモデルを構築することができた。この思想は、流域治水につながることであり、本検討の取り組みが、今後流域治水に発展していくとよいと思う。